

# 竹炭づくり 環境に目を 身近な里山で体験

豊田市の  
高平の  
松平の  
生徒14人



生徒が炭を取り出す  
焼きたがった炭を  
ら=9月29日、豊田・大内町で

豊田市鶴ヶ瀬町の松平  
高校（加藤英樹校長、生  
徒448人）ライフコー  
ディネート科の生徒14人  
が9月29日、大内町の里  
山で竹炭づくりを体験し  
た。

大内竹工房竹炭クラブ  
の有山富男代表、小坂町  
と永瀨勝喜さん、古瀨  
間町の指導の下、生徒  
らは焼きあがった炭を窯  
から出す作業を体験した。  
竹炭は9月上旬に伐採し  
揃えた竹を窯に入れ、レ  
ンガで窯口を塞ぎ点火。

その後24時間で火を止め、  
冷めるまでの1週間を蒸  
し焼きにしていった。

1年生の平川波流さん  
（16）は「渡刈町は「取  
り出し作業が楽しくて夢  
中になった。窯の中は暗  
かったが取り出した時の  
炭の匂いと形が印象的だ  
った。竹炭活動が里山を  
回復させることを知り、  
参加できてよかった」。  
2年生の伊東幸喜さん  
（17）は「渡刈町は「窯  
から竹炭を取り出すとき  
入り口が狭く、温かい空

気がこもり、汗が止まら  
なかった。竹炭活動が環  
境をよくしていくESD  
活動の一つとなると知り、  
3年生になっても参加し  
ようと思う」。担当教諭  
の宇野しずみさんは「3  
年生の中には3年連続で  
参加した生徒も2人おり、  
初めて体験する1年生と  
協力しながら、活動して  
いた。竹炭体験が永く続  
くことを期待している」  
と話していた。

竹炭は学校に持ち帰っ  
てラッピングを施し、消  
臭剤として地域の交流館  
などに置く。同校では教  
育活動の中に里山を見直  
す機会となるESD活動  
を組み込むことができる  
竹炭体験を毎年開催して  
いる。

【岡田】